



泉 小 だ よ り

令和8年1月21日

No.10

佐久市立泉小学校

合言葉 「対話 ～自分のことを自分の言葉で 伝えよう～」

文責:教頭

3学期始業式

新しい年を迎え、いよいよ三学期がスタートしました。登校日は全部で46日と短い学期ですが、学年のまとめと次の学年への準備にとって、とても大切な時間です。

三学期始業式は、二学期終業式と同様に感染症拡大予防のためオンラインで行いました。児童代表で3年生が三学期の目標を発表してくれました。また、校長先生から「十二支」についてのお話がありました。日本ではおなじみの十二支ですが、実は国や地域によって登場する動物が少しずつ違うそうです。例えば、日本では「ウサギ」の年にあたる干支が、ベトナムでは「ネコ」だったり、中国では「イノシシ」の代わりに「ブタ」が登場したりします。なぜ違うのか、どうしてその動物なの、その国の文化や考え方などを知るきっかけになるかもしれません。興味のある人は調べてみてください。

冬休み中には、家族団らんを楽しんだり、お餅つきや地区のお正月行事に参加したりして、子どもたちが冬休みならではの体験をすることができたこと、感謝申し上げます。

三学期は、これまでの学びをしっかりと振り返り、次のステップに向けて心と体の準備を整える大切な時期です。一日一日を大切に、充実した日々を過ごしていきましょう。



冬のスポーツを楽しもう！

1月16日（金）に、2・3年生が風越アイスアリーナでスケート教室を行いました。はじめにインストラクターの方から、安全に滑るための「転び方」を教えていただきました。最初は不安そうに氷の上に立っていた子どもたちも、少しずつ体の使い方に慣れ、友だちと励まし合いながら挑戦する姿が見られました。

時間が経つにつれ、「たくさん滑れるようになった」「速くなったよ」と、笑顔で話す子どもたちが増え、達成感に満ちた表情がとても印象的でした。スケート教室にはじめに、三つお願いとして「自分も友だちも怪我をしない」「ちょっと粘り強く挑戦してみる」「終わったとき『楽しかった』と思えるといいな」ということを話しましたが、三つとも花丸のスケート教室となりました。今回の体験を通して、あきらめずに挑戦する気持ちや、できるようになる喜びを味わうことができたようです。

2月には、1年生のそり教室、4、5、6年生のスキー教室を計画しています。一方で、物価高騰を受けて観光バス借り上げ代が急騰しており、これまでと同じようにそり・スキー・スケート教室を維持していくことが難しくなってきています。子どもたちが冬のスポーツに触れる貴重な機会でもあることを大切に考えながら、新たな方向を検討していく時期でもあると考えています。



泉小学校は、参観日以外にも保護者や地域の皆様に自由に学校の様子を見ていただけるように学校開放をしております。日本体育大学の城所先生に児童の活動調査をしていただくようになって、外で遊ぶ子どもたちが多くなっています。授業の様子だけでなく、休み時間の子どもたちの様子もあわせて見ていただければと思いますので、お時間があるときにぜひご来校ください。

主な行事予定

<2月>

- 2日（月）安全点検日
4日（水）1年そり教室
4, 5, 6年スキー教室
6日（金）野沢中学校説明会
おはなしの泉
9日（月）学校運営・C S推進委員会
60周年準備委員会
10日（火）口座振替日①
職員会のため全校5時間授業
11日（水）建国記念の日
12日（木）第3回来入児保護者会
来入児一日入学
13日（金）5・6年参観日
おはなしの泉
17日（火）児童総会
18日（水）PTA運営委員会⑤
19日（木）3・4年参観日
20日（金）口座振替日②
23日（月）天皇誕生日
27日（金）支部児童会④

<3月>

- 2日（月）安全点検日
3日（火）新児童会
9日（月）学期末清掃（～16日）
10日（火）6年生を送る会
16日（月）三学期終業式
17日（火）卒業証書授与式
18日（水）～ 春休み
23日（月）PTA引継ぎ会・監査
27日（金）新5・6年生準備登校
新1・4年学級発表/学級PTA役員決め

※口座残高のご確認をお願いします。
今年度最後となります



※各行事とも、状況に応じて変更になる場合があります。

※11・12・1・2月の帰宅時刻は、夕方4時半となっています。暗くならないうちに帰宅できるようにご家庭でも声掛けをお願いします。

お願い

◇今年度の学校徴収金の口座振替は、2月が最終となります。2月10日（月）に1回目の振り替えを行いますので、口座残高の確認をお願いいたします。
2月末に支払いを終えたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

相手への思いやりとともに、心と体で学ぶ冬

～五感で感じる冬の魅力と「塩梅（あんばい）」～

3学期始業式の日、雪が降りました。どんどん周りが白くなっていく様子を見ながら、子どもたちは「雪だ！」と大喜びで、早速外に出て雪遊びを始める姿がありました。翌日も、校庭や校舎周辺に残った雪を雪かきで集めて、「雪合戦をするんだ。」と雪山を作る姿がありました。雪遊びは、雪に触れたときの「つめたさ」、踏みしめたときの「ギュッ」という音、太陽に反射してキラキラ光る景色といったように、子どもたちにとって五感で自然の恵みを感じることができる活動です。一方で、雪遊びの定番である「雪合戦」では、新たな学びの場面も見られます。最初は和気あいあいと楽しんでいても、夢中になるうちに力が入りすぎてしまったり、雪玉を固く握りすぎてしまったりすることがあります。雪玉の堅さや投げる強さ、相手との距離によっては、思わぬけがにつながることもあります。遊びの中で「ここまででは楽しいけれど、これ以上はやつたら痛い・危ない」という「加減」や「塩梅」を学ぶことは、対人関係における思いやりや自律心を育てる大切な場でもあります。

学校では、「相手も自分も楽しい」という状態を保つために、一人一人がどのように行動すべきかを子どもたちといっしょに考えていきます。ご家庭でも、冬の遊びの思い出話を聞きながら、「相手への思いやり」という心の塩梅についても、ぜひ話題にしてみてください。

